

1. 園の教育目標

遊びだいすき、友だちだいすき

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

努力目標…「楽しそう!やってみよう!」

～子供達が心を動かし、自ら表現したくなる環境や教師の援助について考える～

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	結果	理由
(1)努力目標を達成するため、意欲的に表現活動を楽しめるような造形活動に取り組む	A	子供たちが「楽しそう!」と思うような教材研究や導入方法を考えるように心掛けた。次第に描画活動をやりたがらない子供が減り、楽しく絵を描き、友達の作品にも関心をもつ子供が増えた。
(2)長期的な見通しを持って保育をすすめる	B	子供の育ちを考え、一年間の見通しをもって保育を進めようとしたが、登園自粛や感染対策などに合わせて、短期の計画となった。今後は、「育てほしい子供の姿」を見据え計画し、保育を展開していきたい。
(3)特別支援教育の充実を図る	B	支援の必要な子供の姿や育ちについて職員で話し合い、適した支援ができるように心掛けた。いろいろな研修や巡回指導で学んだことを共通理解し、さらに有効な手立てを考え、同じ方法で支援していけるようにしていきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	今年度は、二度の登園自粛や感染拡大防止のため、当初計画していたことができなくなり、保育内容の充実については課題が残ることが多かった。しかし、その中で子供一人ひとりの育ちをみて、今優先すべき活動をしっかりと考え、保育の中に取り入れることができた。また、子供の育ちには保育内容を精選して見通しをもって積み上げていく必要があることを再認識した。その点を次年度につなげていきたい。

◎「3.4.」の評価結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが、成果は十分でない D 取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的取り組み方法
1. 長期的に見通しを持った保育を計画する	年度当初に子供の実態を職員でしっかりと把握し、見通しをもった保育ができるように年間の計画をたてて、保育をすすめていく。また、園内研修などを通して三年間の育ちも見通せるようにしていく。
2. 特別支援教育の充実を図る	多様化する子供の姿や育ちを丁寧に捉え、課題や支援方法を明確にする。また連携機関よりアドバイスをいただいたことを職員間で再検討し、その子供に適した支援を探していきたい。